

「週遊二日で行こうよ」秋岡さんは言っています  
「土日は人間らしい遊びをやりよう」と  
久しぶりにたくさんの方が集まったどま工房  
新旧それぞれに  
どまを知ろうとする人々がいました  
秋岡さんが理想とした  
「どま」の空間とはどんなものだったのか  
人間らしく幸せに暮らすための空間が  
そこにあったのかもしれない  
人と人 モノとモノ 人とモノが集い  
新たなコトが生まれる場所  
「どま」ってこうでなくちゃと  
あらためて感じた日  
「どま」が持つその不思議な空間の理由（わけ）  
を考えてみたいと思います



人間らしい生活と  
あそびの場

どま・ドマ

「どま」ってなんですか？  
「土間」という言葉の意味は理解できても、その空間が生み出すもの・目指すものって何でしょう？  
どま的空間が持つ機能、秋岡さんが目指したどま空間、置戸のどまについて考えてみようと思います



OKE  
CRAFT  
人と、木と、おけと  
オケクラフト

【言葉としての「土間」】

そもそもの「土間」とは、屋内で床板をはずさず地面のまま、あるいは「三和土（たたき）」にしてある空間のことを指し、人々の生産の場としても機能した。



◎三和土…赤土や砂利などに石灰とにがりを混ぜて練り、塗って叩き固めた素材のことで、土間の表面に仕上げ材として使われていた。

←「土間」イメージ



【どま工房落成式表紙：秋岡芳夫】

【「どま」的空間がもつ役割】

古く日本の生産の場として機能してきた「土間」は農閑期などの作業場であり、人が自由に行き来し集まり、情報が行き交う空間であった。そこは地域に暮らす人々の「本音」が集まる場所。暮らす上で一番「大切」とすることが生まれる場所であった。



【どま工房看板イメージ：秋岡芳夫書】

←「DOMA」も秋岡さんのアイデア。  
「横文字を入れても面白くて、新しい感じもできるでしょう」と、当時の担当者へのメモが残されている。

【秋岡芳夫とドマ - 工房住宅へのあこがれ -】

秋岡さんから生み出される多くの発想は、様々な人たちの密度のある交流から具現化されてきた。それらを可能にしてきたのが、「人と人、モノとモノ、人とモノ」をつなぐ、秋岡さんも好んで使った「ドマ」であったように感じる。

◎晩年の活動拠点であった「ドマ工房」は、世界初の総合的デザイン教育を行った【バウハウス】の影響を受け、「工房住宅」や「工房生活」を提唱してきた秋岡さんの住まい観の実践として見る事ができる。「ドマ工房」はパブリックな空間でありプライベートな空間。そして生活をするところで作業をするところ。性別や職業、趣味思考の垣根を越えて多くの人たちが交流を持ち、モノづくりを共にするといった、モノづくりに関するコミュニケーションのあるべき形といえるのではないだろうか。



【どま工房イメージイラスト：秋岡芳夫】



【画像：日本バウハウス協会 HP】

【置戸「どま工房」への思い】

1994年（平成6）に開設したどま工房は、古くから農林業で栄えてきた置戸の中に生き続けていたり、消え去ろうとしている知恵や技を再生し、新たな生活文化を作り出していこうという思いが込められ、どこの農家にもあった「土間」が持つ機能を大切に、交流を図ることを目的とされた施設。

◎1991年（平成3年）、クラフトパーク策定委員に委嘱された秋岡さんは、1年あまり重ねられた議論の中で「生活学博物館を建て、観に来た人に触れて、使って、貸し出すモノの図書館として機能することができるなら」と自身が保管する膨大な生活工芸資料を寄贈することを提案。この提案から生活学博物館の設置が計画に盛り込まれる。

◎1994年（平成6年）、生活学博物館の構想から誕生した「どま工房」の名は秋岡さんが命名した。「どま工房」は、五感の全てを通して道具とつき合う「モノの図書館構想」の具体例として、土間がデザインされた。

◎秋岡さんが重要視した【コミュニティの中から生まれるモノづくり】を体現する場所がドマであったように考えられる。置戸町のどま工房は、そんな秋岡さんの思いが込められた空間。

【秋岡芳夫 未発表原稿「ぼくちのドマ」】

ぼくはずーっと「工房住宅」をめざしつづけてきた。ぼくのいまの工房は、工作室+モノ資料室（モノの図書館）+木工サロン。（中略）木工塾・とんぼ塾・その他の塾で土日はフル活用のぼくちちは二枚看板。表札が二つかつつる。「アキオカ」のほかにもうひとつ「ドマ」。土足でだれでも入ってくる、まるでかつての農家の土間みたいな空間。だから「ドマ」の表札。ドマを漢字で書かなかつたのは、アメリカ・マサチューセッツの共同生活のユーティリティみたいな空間にという思いも込めて、カナにした。（中略）

「週遊二日」がはやり始めたころ、僕はこの時間の過ごしかたのキーワードを新作した。「週遊二日」で行こうよ。やれ疲れたと土日に「ゴロ寝・テレビじゃ芸がねえ。待つてました、土日」と、土日に人間らしい遊び、やろうよ。「週遊二日」。土曜の木工塾と日曜のとんぼ塾も、染織塾も書の塾も、みんな遊びの塾。みなで手で遊んでる。ぼくも遊んでる。この日は「周遊二日」というぼくの我流の書をかかげてる。（一部抜粋）

※「遊」の部首は「辵」ではなく「扌」で記されている

「土間」…古くから日本の生産の場として機能してきた作業空間  
「ドマ」…目黒にある秋岡さんのドマ空間  
「どま」…秋岡さんが構想、命名した置戸町のどま空間